

盲目の整調

Blind Stroke in 1930s

(改訂新版ボート百年／宮田勝善著、時事通信社、1976年 より抜粋・一部編集)

●昭和10年の頃、アメリカのボート界の強豪、コーネル大学は、全米エイト学生選手権レースに、盲目のドン・モーガンを整調に起用した。コーネル大は優勝こそしなかったが、モーガン整調のもとで堂々の戦績をおさめた。

●モーガンは高校時代、遊んでいた花火が爆発して視力を失ったが、その肉体的ハンディキャップにめげず、よく勉強もし、身心のよりどころをボートに求めてじつに練習をよくやった。コーネル大のコーチは彼の熱心さを認めて、整調の要席を与えたのである。これはウォーターマンシップさえあれば、ボートは盲目でも漕ぐこともできるし、またいくらでも強くなれるという好個の一例である。



1950年代初頭、盲学校の生徒にボートを紹介したコーチ

(Row2K 2005年3月31日の記事より要約)

●1950年代初頭、ニューヨーク盲教育大学(現ニューヨーク特別教育大学)の数学と語学の教授だったセス・ウィークス・ホアード(Seth Weeks Hoard)氏は、それまでボートもコーチも未経験だったが、大学を説得し、ハーレム川のバイキング・ロウイング・クラブで、視覚障害の生徒の回復訓練としてロウイング・プログラムを開始した。彼は、コーチとしては初心者だったが、すぐに、ロウイングが健常者と同じレベルで何ら制約なく参加することができるスポーツになり得る、と確信した。地元高校からコックスを雇い、多くの盲目の生徒にロウイングを体験させた。

●彼は、さまざまな革新的な指導方法も編み出した。オールの木ハンドルにフェザーの位置がわかるように目印の鋏を打ったり、発艇棧橋の端にファイバーマットをとりつけて警戒できるようしたり。また、指をかけてつかみフェザーできるようにした、スカル用の「クロウ・クラッチ・グリップ」(claw clutch grip)も作ったし、ロウイングテクニックの正しいポイントを思い出せるように漕艇歌も作った。プログラムはすぐに効果を表し始め、やがて大学は、バイキングの艇庫とボートを買収するまでになった。クルーはレガッタにも出場し、非公式のレースではコロンビア大学の新人クルーを負かすことさえあった。

●生徒の多くが、ホアード氏が退職した後、何年にも渡り良き師と親交を続けた。ホアード氏は、1990年代初頭まで、現役で漕ぎ、またコーチも続け、生涯をボートの普及に身をささげ、2005年に98歳で亡くなった。